

研究・調査報告書

報告書番号	担当
369	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Risk factors for treatment failure in smokers: relationship to alcohol use and to lifetime history of an alcohol use disorder.</p> <p>禁煙治療不成功の危険因子：アルコール摂取あるいは生涯アルコール使用障害既往との関連</p>	
執筆者	
Leeman RF, McKee SA, Toll BA, Krishnan-Sarin S, Cooney JL, Makuch RW, O'Malley SS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Nicotine Tob Res. 2008 Dec;10(12):1793-809.	
キーワード	
禁煙、再発、アルコール摂取、アルコール使用障害	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>禁煙失敗に及ぼす飲酒の影響、あるいはこれに関する機序についてはほとんど知られていない。「禁煙による価値創出」vs「喫煙による価値喪失」という2パターンの禁煙介入の無作為抽出臨床試験 (Toll ら、2007) (N=249) (両群に長時間作用型プロピオン投与を併用) のデータを用いてこの問題を検討した。</p>	
<p>方法：</p> <p>生涯におけるアルコール使用障害 (AUD ; 現在または過去の乱用、過去の依存) の診断の有無、飲酒の3レベル (非飲酒、中等度飲酒、有害使用) で参加者を群分けした。ベースライン、6週間の治療中、禁煙後12週間それぞれの期間での飲酒状況によって、飲酒カテゴリーを定義した。</p>	
<p>結果：</p> <p>禁煙不成功予測因子 (うつ症状など) において、ベースラインでの飲酒レベルやAUD既往による差はほとんど認められなかった。介入中または追跡期間中に喫煙してしまう確率は、大量飲酒した日において中等量飲酒や飲酒しなかった日よりも高かった。全ての解析においてAUD既往は禁煙の失敗を予測しなかった。また全ての解析で、飲酒カテゴリーとAUD既往との有意な相互作用も認められなかった。アルコール有害使用者に比較して、中等度飲酒者の方が禁煙後12週間における禁煙失敗の可能性が少なく、ベースラインでの非飲酒者がそれに次いで少なかった。</p>	
<p>結論：</p> <p>禁煙中に喫煙してしまうこと、および禁煙失敗はそれぞれ大量飲酒した日、および有害飲酒と主要な関連があり、中等度アルコール摂取には関連が少ないと考えられた。</p>	